所属	心理学研究科　　臨床心理学専攻　　修士課程	修了年度	2021 年度
氏名	永江　亜紗	指導教員 （主査）	浅野　憲一

論文題目	**劣等回避へのあがきが収入，精神的健康及び ウェルビーイングの関連に及ぼす影響**

本 文 概 要

【問題と目的】劣等感は否定的な側面だけが注目され研究されてきている。しかし，劣等感には肯定的な側面と否定的な側面があるとされている。実際に社会的比較の研究では，自分より優れた人と比較することが自身のパフォーマンスが向上する傾向にあることが明らかになっている(Collins，1996；Lockwood & Kunda，1997)。劣等感に関して Gilbert et al.(1989，2005a,b)と Dykman(1998)は，社会的関係の中で不安や安全でないと考えている人は，「気づいてもらえない」，「拒絶される」といった望ましくない状況を回避しなければならないという心理的プレッシャーを感じていることを指摘し，「劣等感を回避するために努力しなければならない」という信念を劣等回避へのあがきと定義している(Gilbert et al.,2007)。劣等回避へのあがきはそのあがきの背後にある「自分の存在を見過ごされる」「出世の機会を逃す」「積極的な拒絶」ことへの恐怖と関連した信念として捉えており，劣等感よりもうつや不安を予測することが明らかになっている(Gilbert et al.，2007)。そのため，劣等回避へのあがきが高い個人は，他者という存在を自分に対して拒否的で，恥をかかせる存在としてみなすとされており，仮に自分が人と比べて劣っていないと認識している状況であっても，過去に感じた劣等感等からくるプレッシャーや怖れによって劣等回避へのあがきが活性化され，精神的健康が脅かされる場合も想定される。こうした背景から劣等回避へのあがきは 2 因子構造であると示され，それぞれ Insecure Striving(IS)と Secure Non-Striving(SNS)と呼ばれている(Gilbert et al.，2007)。前者の IS は「見落とされる」，「出世の機会を逃す」，「積極的な拒絶」などの恐怖と関連した自己努力と改善へのプレッシャーと関連し(Gilbert et al.，2009)，　後者の SNS は成否にかかわらず受容される感情や自分が何かを達成していても達成していなくても，自分が他者から受け入れられているという感覚と関連している(Bellew et al., 2006)。

また，何に対して劣等感を感じるかという領域の 1 つに社会経済的状況があり，それらの悪化は，精神的健康の悪化と関連することが数多くの報告で示されている（Lorant et al ,2011）。そして社会経済的状況と精神的健康やウェルビーイングとの関連は単純な相関関係ではないことも指摘されており（Kahneman，2010），Frank（2017）は，収入を他人との比較によって満足が得られる地位財であると指摘していることから，社会経済的状況と幸福感や精神的健康の関係には，劣等回避へのあがきが影響している可能性がある。しかし劣等回避へのあがきと社会経済的状況，幸福感，ウェルビーイングとの関連は明らかになっていない。そのため本研究では劣等回避へのあがきと精神的健康，ウェルビーイングとの関係を検討する。また，劣等回避へのあがきが社会経済的状況と精神的健康，ウェルビーイングとの関係を調整する要因であることを想定し，年収と精神的健康，ウェルビーイングの関係に劣等回避へのあがきが及ぼす影響を検討することを目的とする。

【方法】一般成人 491 名を対象に無記名，個別回答式によるオンラインアンケート調査を行った。調査は①世帯収入②striving to avoid inferiority scale パート 1 (SAIS；Gilbert，2007)③日本語版 the Satisfaction With Life Scale (SWLS；角野，1994)④日本語版 Depression Anxiety Stress Scales (DASS；安達・吉野・上野, 2013)によって構成されている。

【結果と考察】SWLS，DASS の下位尺度の変化に IS，SNS および世帯収入が効果を与えるかどうかを検討するために階層的重回帰分析を行った。SWLS または DASS の下位尺度である抑うつ，不安，

ストレスを目的変数とし，Step1 に世帯収入と IS，SNS を投入し，Step2 では 2 つずつを掛け合わせた交互作用項を投入し，Step3 ではすべてを掛け合わせた交互作用項を投入した。その結果，SWLS は，SNS，世帯収入と SNS の交互作用項が SWLS と有意な正または負の関連を示した。抑うつは，IS，SNS，世帯収入，SNS と世帯収入の交互作用項が抑うつと有意な正または負の関連を示した。不安は，IS，SNS，世帯収入，SNS と世帯収入，IS と SNS と世帯収入の交互作用項が不安と有意な正または負の関連を示した。ストレスは， IS，SNS，世帯収入，SNS と世帯収入，IS と SNS と世帯収入の交互作用項がストレスと有意な正または負の関連を示した。次に有意な交互作用の内容を調べるため，IS，SNS の平均値±1SD のそれぞれの値における世帯収入の効果を単純効果分析で確認した。SWLS は，SNS が低い場合世帯収入が SWLS に有意な影響を，抑うつは，SNS が低い場合世帯収入が抑うつに有意な負の影響を，不安とストレスは，SNS が高い場合世帯収入高群の IS は不安・ストレスに有意な正の影響を，SNS が低い場合世帯収入低群が不安・ストレスに有意な正の影響を及ぼしていた。

以上の結果により，劣等感を回避しようとすることが単独で精神的健康やウェルビーイングに影響を与えるのではなく，収入や社会から自身は受容されているという感覚が相互作用しながら，精神的健康やウェルビーイングに影響を与えてしまうということが明らかとなった。つまり劣等感を回避しようとすることのみが精神的健康やウェルビーイングに影響を与えるのではなく，収入が加わると社会から自身は受容されていると感じていても，精神的健康やウェルビーイングに影響を与えてしまうと考えられる。本研究により，低収入者にはベーシックインカム等の経済的支援や福祉サービス・福祉制度の充実，高収入者には劣等感や経済的な裕福さに関する心理教育が精神的健康及びウェルビーイングの向上に寄与すると考えられる。